

2020 年度
点検評価報告書

聖学院みどり幼稚園

1. 聖学院みどり幼稚園の教育目標

「神を仰ぎ 人に仕う」を聖学院全体の建学の精神(School motto)とし、「神さまの愛を知り、人と共に生きる力を育む」を聖学院みどり幼稚園の教育の目標として、聖書が証しする神さまの言葉に耳を傾け、祈りつつ、「神と人ともに愛され、自主性を持ち、自発的に行動できる子どもを育てる」ことをめざします。

そのため本園では、具体的な教育課題として次の7項目を掲げています。

1. 遊びを通して子ども達の心身の成長(非認知的スキルの育成)をうながしていく。そのために、豊かな経験と知識を持った教員が子ども達の状況を適切に把握し必要な支援を行う。
2. 子ども達自身が個性を伸ばし成長できるための環境作り(個々の興味関心を満たす用具・遊具・自然などが十分に提供される)を重視する。
3. 広い園庭の中、たくさんの草花や樹木や小動物達など豊かな自然に触れ、いのちの大切さと素晴らしさを自らの身体で知る。
4. 礼拝を通して、一人一人には異なる個性と賜物があり、全ての者が神さまに愛されている存在であることを知ると共に、他者のために祈る心を養う。
5. 幼児・児童に対する英語教育の専門家であるネイティブ教員による「英語の時間」や、外国人留学生達との交流を通して様々な文化に対する理解を深める。
6. 音楽や自然体験・文化体験など可能な限り本物に触れることをめざした様々な活動を通して、自身の国の歴史や文化を知り、味わう。
7. 家庭との連携を密にすることにより、子育ての教育環境を整え、また子どもの幼稚園時代にしかできない経験を通して保護者自身も子ども達と共に成長していく。

2. 年間保育目標

2020年度年間保育目標：「神さまの愛の中で、人と関わりながら、生きる力を育む。」

2020年度聖句：「神の愛がわたしたちの心に注がれている。」

(新約聖書・ローマの信徒への手紙 第5章5節より)

	健康の生活	交わりの生活	探求する生活	表現する生活
年少児	<ul style="list-style-type: none"> 身体を使って遊ぶ事を楽しむ。 身のまわりのことを自分でしようとする。 みんなと一緒に遊ぶことやおやつを食べることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 神さまに愛されていることを知る。 友だちと一緒にいることを楽しみながら生活する。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろなことに興味を持ち、やってみる。 喜んで神さまのお話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ありのままの自分を表す。 自分の気持ちを言葉で伝えようとする。 歌ったり、描いたり、作ったり身体を使って表現することを楽しむ。
年中児	<ul style="list-style-type: none"> 自分の力を充分に使って遊ぶことを楽しむ。 身のまわりのことを自分でする。 食べ物を与えてくださる神さまに感謝し、友だちと楽しく食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 神さまに愛されていることを知り、喜んで讚美し祈る。 友だちに関心を持ち、一緒に生活することを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 神さまやイエス様のことについて知る。 身のまわりの出来事に興味や関心を持つ。 考えたり、工夫することを楽しみながら、自分でいろいろやってみる。 身近な自然に触れ、楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ありのままの自分を表す。 自分の思いを言葉やいろいろな方法で伝える。 いろいろな表現の仕方があることを知り、共に楽しむ。
年長児	<ul style="list-style-type: none"> 健康や清潔の習慣をすすんで身につけ、生活の仕方を知る。 工夫したり試したりしながら、自分の力を十分に使い、思い切り遊ぶ。 食べ物の大切さを知り、感謝して友達と楽しく食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 神さまに愛され、守られていることを知り、喜んで讚美し祈る。 いろいろな人の考えや気持ちが分かり、共に生活する。 一つのことをみんなでするとの喜びを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 神さまやイエスさまのことについて知り、関心を深める。 いろいろなことに興味を持ち、考えたり、調べたり、工夫したりすることを楽しむ。 自然の変化を感じ、動植物と共に生活することを楽しみ、生命の大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 感じたり、考えたりしたことを言葉で伝え合う。 いろいろな表現の仕方を経験し、自分の思いを表す楽しさを知る。

3. 2020年度の目標や計画を基に設定した 幼稚園評価の具体的な目標

評価項目に沿って、本務教員及び補助教員(非常勤)による自園及び自身の自己点検を実施することにより、また、在園児保護者への幼稚園生活に関するアンケートの結果を踏まえ、教員自らが第三者の立場に立って客観的に自己の活動を振り返り、自己評価を実施することによって自園と自身を適切に見る目を養い、本園の施設・設備や教育内容の課題を自覚し、改善に向けてそれぞれが主体的・積極的に関わり取り組んでいくことを目標とする。

4. 園としての評価項目の達成及び取組み状況

評価段階(A:よくできている、B:できている、C:あまりできていない D:全くできていない)

評価項目	評価	取組状況
I. 教育内容		
保育の計画と実施	A	建学の精神に基づき、中長期的な教育目標及び年度毎の保育目標を明確にしている。また、教育課程は保育目標に基づき、新教育要領の精神を踏まえ適切に編成している。具体的には、子どもの遊びをカリキュラム化し、年間をⅧ期に分け、それぞれに指導目標を定めている。なお、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響(以下、「コロナ禍」と言う。)のため、入園式後5月末までは臨時休園とし、再開後も園行事を精査し、中止とするもの、規模を縮小するもの、内容を変更して実施するものなど、地域の感染拡大状況や各家庭・園児達の現状や実態を考慮しながら判断し、諸活動を実施した。
教職員体制	A	教職員が園の教育目標や年間保育目標を共通理解するために、本務教員については原則として毎日保育後に報告会や連絡会を行い、保育が教育要領、教育課程、園児の実態に即したものになっているかを確認し、また相互に意見を出し合うなど意思疎通を図る機会としている。さらに、補助教員やその他職員達に対しては、話し合いの内容を文書にして毎朝確認できるようにしている。
指導のあり方	A	教員一人一人が、本園の環境を通して行う幼稚園教育の特質を理解し、園児の発達の道筋を見通して計画的に環境構成を行っていけるようにしている。そのような環境を整えた上で、本園の指導の特質として園児個々人の成長や発達の違いに十分配慮しながら自由な遊びを通しての総合的な指導を行っている。また、園児との関わりにおいて信頼関係の構築のため、園児の主体性と教

		員の意図とのバランスに配慮しつつ、園児一人一人が安全で心地よく過ごすことができるように工夫している。なお、成長や発達に課題がある園児に対しては、当該家庭や関係療育諸施設等と連携しつつ、その状態に応じた指導の内容や指導方法について園全体の課題として全員で議論し取り組んでいる。
研修や研究	C	園の教育方針や年度目標を理解し、さらには教育内容の質の向上や改善を目的として補助教員を含む全教員による園内研修や懇談会を年間数度実施した。なお、教員の資質向上のために、これまでは長期休暇期間中や土曜日、及び午後に保育を行わない水曜日などを利用して、「埼玉県」や「さいたま市」、さらには「私立幼稚園協会」や「キリスト教保育連盟」などの公的機関が開催する研修会などに定期的に参加するようにしていたが、2020年度に関してはコロナ禍によりそれらの研修会が中止となったり、オンラインによる開催になったりした他、幼稚園閉鎖への対応やその間の家庭や園児との連絡・連携を密に行う必要性などから、それらへの参加は難しかった。そのため、内部研修として成長や発達に課題を持つ子どもへの対応などに関して、現在本園に関わって下さっている「発達支援アドバイザー」(聖学院大学人文学部特任教授)をお招きしてのカンファレンスを実施した。
II. 地域の幼児教育センターとしての役割		
子育て支援	B	子育て支援及び本園の保育への理解のために、就園前の幼児を持つ地域住民等を対象に「園庭開放」や「親子で遊ぶ会」の他、未就園児親子クラス(たまご組<1~2歳児>、ぐり組・ぐら組<2~3歳児、第Ⅲ期以降は入園予定者のみ)を実施し、また、必要に応じて子育て相談や子育てに関する情報の提供などを行った。
預かり保育(オリーブクラス)	A	2019年度後半よりさいたま市の「子育て支援型幼稚園」に認定されたことを受け、朝午前8時から保育開始時間前まで及び保育終了後から午後6時まで、土日祝日、園閉鎖期間を除いて原則として毎日オリーブクラスを実施するようになった。なお2020年度は、コロナ禍により預かり人数の制限をせざるを得ない状況ではあったが、平日は平均して朝3、4名、午後2、30名程の利用があった。
III. 安全管理		
外部侵入者・来訪者などに対する安全対策	C	本園には正門と裏門があるが、多くの保護者は自家用車で園児の送迎しているため大学駐車場がある裏門を利用するケースが多い。正門、裏門とも職員室及び事務室にてカメラ付インターホンで相手を確認し解錠するシステムとなっているが、それぞれの入り口が園舎より離れているため本人確認が十分にできない場合がある。2020年度については、平日の午前9時から9時半までの時間帯は、園児の登園時間のために園内に保護者が多いことから、また利用する保護者の利便性を考慮して施錠せず解放したままとした。しかし、安全性などに課題が残ることから2021年度については常時施錠することに変更した。また、解錠・施錠装置の経年劣化等もあり保護者等が園内に立ち入った後の施錠が十分ではない場合が時折あり、保護者には施錠の再確認をお願いしている。一方、本

		園では男性教職員が少ないため、万が一不審者が侵入した場合の対応として、現状では防犯スプレーを常備しておく等の対策に留まっている。なお、現在の施錠・解錠のシステム自体が時代遅れとなっており、今後、機能的に優れた新たなシステム導入を検討する必要がある。
施設・設備・園児に対する安全対策	B	大地震や火災など様々な災害への対策として、毎回テーマを設定して園全体の防災避難訓練を年間4～5回実施している。園舎やプレイルーム等は耐震強度的には安全基準に適合しているものの、築40年を超え外壁の劣化や給排水設備、電気系統の老朽化が進行しており、園児の安全性を第一にこまめな点検や修繕を行っている。また、設備や遊具の点検は毎朝園児達の登園前に本務教員、補助教員らで行うようにしている。なお、本園はなるべく閉鎖された空間とならないようにガラス窓やガラス戸が多く使われているが、ガラスが破損した場合の対策として保育室とプレイルームの窓については飛散防止シートを貼付している。
衛生管理	A	学校保健法の定めに従い、校医、歯科医師、薬剤師を非常勤としてお願いし、健康診断、歯科検診、水質調査・照度調査などを定期的に行っている。特に2020年度はコロナ禍により、通常以上に園児達の手洗い・うがいの励行を徹底し、保護者や外部者の園舎内立ち入りの際にはアルコールによる消毒やマスク着用をお願いした。教職員のマスク着用については、年度当初は保育への様々な影響等を考慮しながら着用について判断をしていたが、年度後半には保育に大きな影響がない範囲で可能な限り着用するようになった。その他、通園バスやプレイルームなどについてはバイオプロテクトCT(除菌・抗菌システム)処理を実施すると共に、遊具等に関しては状況に応じて消毒するようになった。
IV. 人事管理		
園の教育目標達成のための人事	B	本園では原則として、幼稚園設置基準に基づくクラス規模及び担任を配置しているが、成長や発達に課題を持ち支援を必要とする園児も各学年若干名在籍する。そのため、それぞれのクラス負荷状況に応じてクラス補助教員を配置している。但し、指導の考え方として補助教員を含む全教員が全園児の名前と個別の状況を把握し、全員が対応できるようにしており、補助教員も必ずしもクラス固定としているわけではない。その時々状況に応じて変更や入れ替えなどを行いながら、園の教育目標達成のための最善の人員配置を行っている。 なお、預かり保育に関しては、通常の保育とは異なり各ご家庭の事情によって保育の必要性がある場合にお預かりすることを原則としているため、通常の保育とは別に預かり保育のための教員(非常勤)を採用している。また、入園前の未就園児親子クラスについては、退職された元教員に非常勤教員としてお願いしている。
教職員の雇用条件と労務管理	A	本園は学校法人聖学院(本部:東京都北区。幼稚園2園、小学校、男女それぞれの中学校・高等学校、大学・大学院)の内の一教育機関であり、人事・労務管理は学校法人聖学院の規程に従って行われている。本務教員の待遇等は人

		事関連諸規程及び幼稚園教員給与規程(東京都幼稚園教諭基準に準拠)に基づいており、また、産休・育休制度、退職制度なども整備されている。
教職員の健康管理	B	学校法人聖学院の就業規則及び諸規程に従い、年一回の健康診断が義務づけられている。但し、本園は幼稚園としては比較的小規模であり教職員数もそれほど多くはないため、教育目標の実現のために一人一人にかかる負担は大きいものとなっており、教職員の心身の健康管理が今後の課題である。
V. 財務管理		
予算作成及び予算管理、決算	B	本園は学校法人会計基準に基づき予算書を作成し、月次の予算管理を行っている。また、同基準に従った会計処理を行うと共に財務計算に関する書類を作成している。さらに、決算は公認会計士の監査を受け、適正であることの証明を受け監督官庁に届け出ている。なお収支に関しては、小規模園であるために学納金収入、補助金収入などと比較して人件費、修繕・維持管理費、通園バス関連経費等が大きく負担となっており、そのため支出超過となっている。本園がめざす保育を実現するためにはある程度の経費の増大はやむを得ない面もあるが、収支改善は創立以来の課題ともなっている。
納付金算定	B	園児納付金の算定に関しては、学校法人会計基準に基づき行っているが、地域の他幼稚園等との比較や収支のバランス等を見ながら納付金額の算定を行っている。
物品購入	A	教材などの在庫は、教育方針及び当該年度の教育目標を踏まえ、種類・量共に適切に管理している。また、一部の物品については聖学院大学からの支援を受けている。
VI. 評価と情報公開		
評価	A	毎年度の重点目標を定め、その達成のために必要な評価項目を定めて自己点検及び評価を行っている。また、自己評価の結果や分析、及び今後の改善方策等を、毎年度末に実施する全保護者への「幼稚園生活アンケート」の結果も踏まえて自己点検・評価の報告書にまとめ、職員会議の議を経て幼稚園関係者評価(保護者会クラス委員、卒園生代表、卒園生父母代表)に回付し、ご意見をいただいている。なおこれらの結果は、関係者評価で出された意見を加えてホームページ等に公開している。
情報公開	A	前項「自己点検・評価報告書」の他、学院全体の「事業報告書」が毎年刊行されており、本園の教育及びその他の運営の状況等についての報告、及び財務諸表が冊子として、またインターネット上に公開されている。また当該年度卒園生については、幼稚園における幼児指導要録の抄本・写しを進学した小学校に送付し、情報の共有と相互理解を図っている。 日々の幼稚園の活動の様子などについては、ホームページ(ブログ)に情報及び写真等を適宜掲載し、外部に幼稚園の活動の状況を公開している。その

	他保護者に対しては、月例保護者会や園だより及びクラスだよりなどを通して園の活動状況や園児達の様子を伝達するようにしている。なお、情報公開に当たっては、インターネットなど保護者以外の閲覧が可能な媒体に公開する場合などについて、情報公開の可否を毎年保護者に確認し、個人情報の保護に配慮している。
--	---

5. 教員自身による自己評価結果

評価段階(A:よくできている、B:できている、C:あまりできていない D:全くできていない)

評価項目	評価	内 容
I 保育の計画性		
園の教育理念・教育目標の理解	A	補助教員を含めた殆どの教員は園の教育理念を把握し、理念に基づいた教育目標に関して理解している。特にキリスト教幼児教育についての理解を深めることにより、園の教育目標の実現に協力・貢献できている。
幼稚園教育要領の理解	B	本務教員は、幼稚園教育要領を読み、理解し、必要な場合には園長や主幹、同僚教員等と話し合うことが概ねできている。なお、補助教員については、幼稚園において学びの機会を設ける必要があると思われる。
教育課程の編成	A	教育課程は、幼稚園教育要領の精神を踏まえ園の教育理念や目標を基に1年間をⅧ期に区分して編成し、それに基づき保育計画を立てている。但し2020年度については、4月、5月がコロナ禍による臨時休園を余儀なくされたことから、6月から翌年3月迄をⅥ期に区分して教育課程を編成した。なお、教育課程の編成は主として本務教員によって行われているが、補助教員についても本園の教育方針に基づく教育課程への理解が概ねできている。
指導計画の作成	A	幼児の発達に即し、幼児期に相応しい生活が展開できるよう編成された教育課程に基づき、週案、日案等の具体的指導計画をクラス毎に作成している。その際、園児の状態や地域の状況の変化に対応できる順応性あるものとなるよう各担当が工夫して作成するようにしている。なお、補助教員についても指導計画への理解を求めているが、ほとんどの場合問題なく協力いただけている。
環境の構成	B	環境の構成については、期毎の教育課程編成時に基本的な環境設定も行っている。特に本務教員においては、遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量に配慮して準備することや、楽しい雰囲気の中で安心して遊び込める環境を構成するよう注意を払っている。異年齢の幼児が自然に交流できるような環境の構築については、遊びの環境としては普段からそのような状況にはあるものの、環境設定としてはそこまでの配慮は必ずしも十分ではないとの意見もあった。補助教員については、昨年に引き続き園庭の樹木や草花など、季節による変化について自身の理解が不十分であるとの感想もあり、園内環境について内

		部研修会等で周知徹底する必要がある。
II 保育のあり方、幼児への対応		
健康と安全への配慮	A	園児のケガや事故に気をつけ、万が一発生した場合は園長や主幹に報告し、保護者と連絡を取り、さらに必要な場合には医師に診てもらうなど適切な処置を行うことができている。また、園児の登園前には遊具等に危険箇所などがなければ点検すると共に園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温なども常に気を配るようにしている。また、園児が登園した際には体調について視診を大切に、問題があると思われた場合は速やかに保護者に連絡するようにしている。
幼児理解	B	常に園児の姿を多面的に捉えるように心がけ、園児の話しをよく聞き、思いを受け止めることに全教員が努めている。そのため、一人一人の園児をよく観察するようにしているが、補助教員の中には周囲の園児達にも目を配ることが必ずしも十分にはできていなかったとする感想もあった。なお、個々の園児の成長や発達の姿、課題等について、長期的な視点で理解し指導することへの理解が補助教員には難しい課題である、との意見も見られた。
指導とかかわり	C	園児を無視したり体罰を加えることはどのような場合であっても決してないよう全ての教員に徹底している。本園の基本的な指導の姿勢としては、園児一人一人のありのままの姿を受け容れ、その子の良さを十分認めるよう心がけている。しかし、園児が自ら考えたり工夫したりできるよう見守ったり、行き詰まった時には適切な指導を行えたかという問いに対しては、昨年引き続き本務教員、補助教員共に十分とはいえなかったとの評価が多かった。
教員同士の協力・連携	B	園児への対応については、本園ではクラスに関係なくその場にいた教員が適切な言葉がけや対応することを求めているが、ほぼできていたものと考えている。そのため、原則として毎日保育後に園児達の状態や様子について本務教員同士で話し合い共通理解するよう心がけており、さらに補助教員についても、その話し合いの記録を翌朝確認できるようにしている。なお、補助教員が直接的に対応した案件については、必ずクラス担任または主幹等に遅滞なく報告するようにしている。
III 教員としての資質と能力		
専門家としての能力・姿勢・義務	B	教員は職務上知り得たプライバシーに関する園児や家庭の個人情報などの秘密を厳守すること、服装や身だしなみなどに十分注意を払い、園児や保護者との対応には公平さを欠かさないようにすることなどを徹底している。さらに、本務教員(クラス担任)については、保護者に対して園児の状況や自らの保育のことをわかりやすく説明し保護者との信頼関係を築くことに努め、幼児教育者としての意識を常に高く保つよう心がけている。
組織の一員としてのあり方	B	本務教員、補助教員を問わず、教職員全員で一つのチームであることを十分認識し自覚している。全体として園児のことやクラスの出来事などで報告したり意見を述べ合ったりすることはほぼできていたと思われるが、補助教員の一部には本務教員に対する多少の遠慮も見られた。

保育の楽しみ・喜び	A	全ての教員が、幼稚園教諭として園児の成長を自分の喜びと感じ、園児と一緒に生活を創りだすことに誇りと自覚を持って教育にあたっている。
IV 保護者への対応		
情報の発信と受信	B	保護者に対し個々の園児の状況や様子を伝えることに工夫をし、また保護者からの相談や要望に対してはできるだけ心を開いて話しを聞くよう心がけているが、2020年度についてはコロナ禍もあり保護者とのコミュニケーションについて必ずしも十分ではなかったとの意見も見られた。補助教員は自ら保護者に対して情報を発信することは少ないが、保護者から問われた場合は答えられる内容については適切に答えるか、あるいは本務教員や園長、主幹などにつなぐことなどが適切に行われていた。
守秘義務の遵守	A	本務、補助教員を問わず、基本的に個々の園児や保護者、家族等の情報は口外されることはなく、個人情報の管理に関しては幼稚園として徹底できていたと考えられる。
対応上のマナー・心構え	B	その場にあった適切な言葉を用い、保護者からの依頼や伝言にはできるだけきちんと対応するよう全ての教員が心がけていた。しかし、2020年度についてはコロナ禍との関連で正確な情報が保護者に伝わっていなかった場合も見られ、今後とも誤解を招かない細やかな対応を行う必要がある。
クレームへの対処の仕方	B	本園ではクレームと呼ばれるようなものはこれまであまりないが、保護者から何らかの指摘等があった場合は、まず謙虚に保護者の話しを伺い、その内容によって園長や主幹に報告し、さらにその結果については、教員全体で共有するよう心がけている。特に、2020年度についてはコロナ禍への対応に関し、園の方針に対して様々なご意見をいただいたが、ご本人に対しては誠意を持って丁寧に説明するよう心がけた。
V 地域の自然や社会とのかかわり		
地域の自然・人々とのかかわり	C	隣接する聖学院大学内には自然を体感できる場所も多くあり利用させていただいている。近隣地域への対応に関しては、ご迷惑をかける可能性がある園行事等の前にはご挨拶に伺うこともあり、また毎年行っているバザーや夕涼み会などには地域の方々も多く参加下さっている。但し、2020年度は多くの行事がコロナ禍により中止となった。なお、日常の活動においては、本園は地域の行事や自治会等への参加などは十分に行っているとは言えない状況である。
小学校との連携	C	本園からは東京都北区の学院内の小学校へ進学する園児が毎年数名いる。しかし基本的には地域の公立小学校へ進学する者が大半であり、園としてはそれらの小学校との連携は最重要課題の一つと考えている。そのため年長児は近隣の小学校との連携・接続プログラムに積極的に参加するなどしている。但し、2020年度に関してはコロナ禍によりこれらのプログラムのほとんどが中止となってしまったことは残念であった。
子育ての支援と地域への開	B	子育て支援や園の開放などの地域への貢献については、2020年度はコロナ禍により例年度よりは縮小されたものの、近隣の未就園児の親子を対象に、時

放		間を定めて園庭を開放するなど遊びと交流の場を提供している。
VI 研修と研究		
研修・研究への意欲・態度	B	本務教員については、長期休暇期間中や水曜日の午後、土曜日などに実施される研修会や研究会等に、それぞれの保育に関する自己課題をもって積極的に参加するように努めているが、2020年度についてはコロナ禍によりほとんど外部での研修に参加することができなかった。
教員としての専門性に関する研修・研究	C	教員としての資質向上のため、幼児の発達理論を学んだり、教育課題や指導計画などに関する研修や研究には多くの教員が関心を持っているものの、2020年度については園としてのコロナ禍への対応に追われる場合が多く、学びへの参加については十分に行えたとは言えない状況である。
今日的課題に関する研修・研究	B	本園では教育的な観点から、成長や発達に課題を持つ幼児やアレルギー・自立遅れなどの幼児を一定数園児として受け入れており、そのような園児への理解と対応などについて関心を持ち、研修などにも参加するなど比較的積極的に取り組んでいる。2020年度については、外部研修への参加は難しかったものの、園内での研修という形で勉強会等を行った。

6. 幼稚園評価の総合的な評価結果

《評価項目》 A…十分達成されている B…達成されている C…取り組まれているが十分でない D…取り組みが不十分

結果	理由
B	<p>はじめに</p> <p>2020年度はコロナ禍への対応に終始した一年間であった。4月の始業式、入園式は行えたが、埼玉県からの要請に従い入園式直後より5月末まで臨時休園とせざるを得なかった。また、園再開後も埼玉県における新型コロナウイルスへの感染者数は高い水準での増減を繰り返し、幼稚園活動にも大きな制約がもたらされることとなった。そのような中での自己点検・評価をどのように進めるべきか試行錯誤の結果、基本的には例年度までの方式を踏襲した上で、必要がある場合にコロナ禍に伴う特別の対応に関するコメントを付する形とした。後年、この報告書を見た者が、2020年度は特別な年で例年とは異なる様々な対応を取らざるを得なかった状況を理解していただくためである。</p> <p>自己点検・評価による効果</p> <p>本園が自己点検・評価を実施するようになって4年目を迎えた。多くの教員が幼稚園評価の主旨とその重要性を理解し積極的に自己点検、自己評価に取り組むことができるようになりつつある。また、このことを通して自身の日常の保育活動を振り返り、幼稚園教員としての現状を把握し、それぞれが取り組むべき課題が明確になってきているのではないかと思われる。さら</p>

に園全体としても、教育活動やその他運営に関して改善、改革すべき課題等が次第に明らかになってきている。これからも、常に自園の問題点や課題を把握し、より質の高い教育や保育の実践に向けて一層前向きに取り組んでいきたい。なお、2019年度からは教員による自己評価を非常勤である補助教員にもお願いしている。補助職(非常勤)という立場でありながらも幼稚園教育の一端を担う者としての自覚と専門性への意識を高めていただきたいがためであった。結果的には、補助職にあっても教育者としての意識向上と本務教員との連携強化に繋がっているのではないかと判断できた。

保育についての評価

本園は創立以来、「遊び」を中心とした人間教育、非認知的能力育成型の教育・保育にこだわってきた。そのため過去には“変わった幼稚園”との評価をいただいたこともあった。近年は幼稚園教育指導要領にもあるように、多くの幼稚園が遊びを大切にすることを標榜するようになったが、その先駆的な役割を担ってきた本園としては、子どもの成長につながる遊びの「質」の一層の充実をめざした保育に転換してきている。

その結果、保育や教育に関しての保護者の方々の満足度は毎年度末に行われる保護者による「幼稚園生活アンケート」の結果を見ても十分高いと評価されているが、2019年度後半から「さいたま市子育て支援型幼稚園」となったこともあり、共働き世帯が増えていることが従来のみどり幼稚園保護者と意識の変化が見られる部分もある。本園としては、常に子どもの成長や発達、非認知的能力やスキルの育成を最重要教育課題として諸活動を行っていく必要を感じており、保護者の幼稚園に対する依存が過大となり過ぎぬよう常に家庭との連携を念頭に置きつつ、より良い協力体制の下で子ども達の成長のための支援を行ってきたい。

施設・設備についての評価

施設・設備の面において特に本園としては環境整備に力を入れてきたが、2020年度はコロナ禍の状況にあって広い園庭を持つ幼稚園のメリットを十分に活かし、子ども達が安心・安全に幼稚園生活を送り活動を行える環境となるよう配慮してきた。一方で、創立42周年を迎えて現在の園舎は耐震性等に大きな問題はないものの特に給排水等の水回りや電気系統など施設・設備面での経年劣化や老朽化が進みつつあり、近年、保護者からも改善の要望が多く出されるようになってきている。創立45周年に向け、園舎及びプレイルームの建て替えや改修等の具体的計画を進める必要がある。

管理・運営についての評価

管理・運営に関しては、幼稚園から大学までを持つ学校法人聖学院の一教育機関として、学院全体のルールの下で管理・運営が行われている。そのため、通常の私立幼稚園として担わなければならない諸々の問題について免除されているメリットがある一方で、幼稚園としての特殊事情に十分配慮した管理・運営ができない場合があるというデメリットもある。他にも隣接する大学施設(チャペル、グラウンド、駐車場、体育館、食堂、送迎バスなど)を利用したり、外国人留学生との交流や大学教員の支援を受けられるなど、他の幼稚園には見られない条件が整えられている。

但し財政面では、100人程度の小規模幼稚園として創立以来ほとんど採算がとれない状況

	<p>が続いているが、将来の園舎建て替えや改修などを考えた場合、収支の改善が必要であると考えられる。なお、本務教員は本園の教育目標の達成のために豊富な経験や高い能力が求められているが、そのため年齢構成が比較的高齢になりがちであり、将来に向けてスムーズな世代交代を図っていくことが望ましい。</p> <p>安全面に関しては、園舎全体の老朽化に伴って設備等に不具合が多く生じてきており、また、園庭の大型固定遊具についても同様である。現在は園児の安全性を第一に最小限の修繕を行っているが、近い将来には全面的な改修等が必要になると思われる。またセキュリティシステムも時代遅れとなりつつあるが、施設・設備の更新に合わせた対応を考えていかねばならないだろう。</p>
--	---

7. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
幼児教育のさらなる充実（家庭との連携）	<p>幼稚園教育は義務教育ではないものの単なる知識の伝達や、計算能力や運動能力などのスキルアップなどではない。人間としてこれからの人生において必要となる「人や物事に興味や関心を持つ」、「一生懸命夢中になって取り組む」、「仲間と協力する」などいわゆる非認知的能力を身に付けることであると本園では考えている。しかしそうではあっても、子どもの生活の基盤は基本的には各家庭にあり、幼児期の教育をより効果的に進めていくためには、園生活と家庭生活を切り離して考えることはできない。もし家庭での生活リズムが整っていなければ、その影響は園生活にも及ぶことになり、また逆に園での生活や活動体験も、その子どもの家庭生活に何らかの形で影響を与えることになる。そのような意味で保護者と教員の間でのコミュニケーションがうまく図られ、家庭と幼稚園それぞれの場における子どもの様子や教育方針などをお互いに共有することを通して相互の理解と信頼に基づいた協力関係が成立することになる。</p> <p>そのため本園では、従来より朝夕の園児の送迎を可能な限り保護者自身にお願いしたいこと、また、保護者の方々の行事への参加や保育参観、さらには保護者例会などを重視してきた。しかし近年、共働き世帯の増加に伴って保護者からは、親の負担をできるだけ軽減して欲しいという要望も少なからず増えつつある。各家庭における幼稚園教育に対する期待への温度差も広がりつつあるとも言える。そのような中で、現在、家庭と幼稚園との新しい連携のあり方が問われている。園児へより良い教育を提供したいという本園としての願いと各家庭からの要望とをどのように折り合いをつけていくべきか、これからの幼稚園の重要な課題と考えている。</p>

<p>幼児教育のさらなる充実(低年齢児幼児教育の在り方)</p>	<p>近年社会的要請が強まっている低年齢児を対象とした幼稚園教育(保育)のあり方と連関して、本園においても満3歳児入園者数が増加傾向にある。さらに地域によっては、2歳児からの幼稚園への受け入れが話題になることもある。しかし幼稚園教育は、幼児の集団に対して体系的にかつ組織的に学ばせる教育であるため、2歳という年齢は社会的活動を行うための準備が必ずしも十分できているとは言い難い面がある。</p> <p>本園においては、2歳児のクラスを未就園児親子クラスとして週一回定期的に行っている。だがそれは、あくまでも幼稚園生活の体験であり正式な入園ではない。しかし保護者や子どもにとっては、幼稚園の雰囲気が分かる上に入園後のミスマッチをある程度予防できるというメリットがあることから毎年希望者は増えつつある。</p> <p>体と心を動かす「幼児の脳」は、3歳までに約80%完成すると言われる。「こころ」が育まれる環境も脳がつくられる胎児期の初期から始まり、3歳頃までにその基礎がほぼできあがると言われているが、別の言い方をするならば3歳までの育て方で、その後の人生の基盤は大きく影響を受けることになる。そのような観点から、この時期の子どもにとっては家庭教育が非常に重要と言えよう。そのような中であって、本園の未就園児親子クラスは、通常の幼稚園教育とは異なり、体系的に、組織的に何かを学ぶというよりは子どもが保護者と一緒に遊ぶことを大切にする、またそのような中で少しずつ集団生活を体験する、といった側面が強調されている。具体的な活動内容については、幼稚園は子どもが遊びに集中できる環境を整え、子ども自身の興味や意思を尊重し遊びは強要しない。おはよう、ありがとうなどの挨拶をする、みんなと一緒におやつを食べたり作業を行う、教員や保護者による絵本の読み聞かせをする、などが中心になっている。</p> <p>今後、益々低年齢児受け入れのニーズが高まることが予想される中、まずはこのような低年齢児の発達特性についての十分な理解を園全体として共有理解として確認する必要があり、そのことを踏まえつつ低年齢児の幼稚園教育の可能性についてさらなる研究、検討を続けていく必要がある。</p>
<p>幼稚園収支の改善</p>	<p>本園の教育は、教員が園児達の様子をきちんと把握するところから始まる。一人一人の園児の状態は全員異なり、同じ園児は一人もいない。そのような園児をきちんと把握した上で、それぞれに必要な支援を行うのが本園の教育の基本である。そのため教員にはそれなりの経験が必要であり、単なる知識として学んだだけでは本園の教育に対応することは難しい場合も多い。従って本園の教員は本務、補助を問わず必然的に経験豊富な教員が多くなっている。</p> <p>財政的な観点からすれば、教員の入れ替えなど回転率をあげることが人件費の削減に繋がるが、本園では目標とする幼児教育の実現の為に教員の質と量が重要であるとの観点から人件費が膨らんでしまう傾向がある。さらに、他園に比較して恵まれた園庭の環境を維持し質の良い遊具等を整備するための費用などから、財政的には慢性的に赤字傾向が続いている。</p> <p>但しそのような中であっても、学校法人聖学院は幼児教育の重要性を十分認識</p>

	<p>し、これまで多少の赤字は容認されてきた面があるが、今後は老朽化した園舎やプレイルーム等の建て替えや改修、大型遊具の更新などのことを考えた場合、可能な限り毎年度の収支はバランス取れたものへと変えていく必要がある。支出面では送迎バス関連費用を含めた管理経費の適正化や無駄な経費の一層の削減を進めると共に、園の将来的な教育に対し寄付(聖学院みどり幼稚園「みらい募金」等)という形で本園の教育方針や目的に賛同いただける方を増やしていく必要がある。</p>
<p>施設・設備の改善</p>	<p>園舎やプレイルーム等の施設・設備の改善は、現在みどり幼稚園が抱える最も重要な課題の一つである。保護者によるアンケートの結果を見ても、半数以上の方が園舎やプレイルーム、さらには一部の大型遊具等の老朽化を指摘している。この問題は上述した収支の改善とも関わってくるが、今後50年、60年と園を継続して行くためには避けて通ることができない課題となっている。そのため現在は、学院全体の協力を仰ぎながら園としての収支の改善に取り組んでいるが、さらには現在のみどり幼稚園の良さを損なうことのない範囲で、「子ども・子育て支援新制度」に基づき私学助成の幼稚園から施設型給付の幼稚園への移行・転換などを含めた様々な可能性を検討しつつあり、創立45周年記念事業として本格的な準備を開始する予定である。</p>
<p>安全対策への取り組み</p>	<p>幼稚園は、若い園児達を預かり指導・教育する機関として何よりもまず園児の健康と安全を守る義務を負っており、普段から安全への備えと意識を持っている。また、万が一の事故の際の対応を的確に行い、園と保護者との信頼関係を維持し、深め、そのことを通して社会的な信用や信頼を守ることも重要となる。</p> <p>幼稚園で想定される危険は、①保育活動に伴うケガなどの事故、②食品や水の汚染等による食中毒や感染症、③火災・地震等の災害、④不審者の侵入による事件などが考えられる。これらの対策としては年間安全計画の策定等により①については遊具や園庭、施設・設備等の恒常的な点検や日常的な安全指導、②については定期的な水質検査や遊具等の衛生管理、③については非常時に備えての防災訓練、④については不審者が入りにくい環境整備や監視体制などがあげられる。特に2020年度については、コロナ禍に伴っての安全対策が園にとっての最重要課題であった。具体的対策として、園児に対してはこれまで以上に手洗いやうがいの励行を、教員に対しては必要に応じたマスクの着用や園児等との距離を適切に保つこと、また遊具や手指等の定期的な消毒を、さらに保護者には入園の際の手指の消毒や保護者同士の距離を確保することなどをお願いしてきた。</p> <p>安全対策は、その危険度をどのように判断するかによって対策もおのずと変わってくるが、100%の対策というのは現実的には困難である。その意味で、万が一事故や災害が発生した場合の対応が重要となる。新型コロナウイルスに関しては、万が一どのようなレベルで感染が発生・拡大したかにより、園としての基本方針は決まっている。さらに上記①から③についても一応の対策が決められている。しかしながら④の不審者による侵入対策と対応が現在本園にとっての大きな課題ではないか</p>

	<p>と考えられる。幼稚園は一般的に女性が多い職場であり、それだけに狙われやすい条件にあるとも言えるが、不審者の侵入を未然に防ぎ、侵入された場合の対応についてマニュアル化しておくと共に、教員の意識づけと普段の訓練の強化を行う必要がある。またハード面でも、侵入者は門から入るとは限らないため、幼稚園出入のセキュリティ強化と監視用モニターを増設することなども検討する必要がある。</p>
<p>自己点検、自己評価 活動の充実</p>	<p>卒園間近の保護者に対する「園生活アンケート」は6年を経過した。いずれの年も、園児にとっても保護者にとっても園に対する満足度は10点満点中8点を超えている。その後、全保護者に対してアンケート調査を拡大するようにしたが、ほぼ同時期に園の内部資料としての自己点検・評価を開始した。当初は専任の教員が年間の活動を振り返り、次年度に向けて園と自身の新たな課題を見つけ、自己研鑽に取り組むことを主眼としていた。しかし、昨年度からは補助教員にも園の活動方針への理解と自己の教員としての資質向上を目的としてこれに加わっていただくようにした。また、自己点検・評価の結果については幼稚園保護者の会のクラス委員(6～10名)、卒園生(2～3名)、卒園生保護者(2～3名)からご意見をいただき、「関係者評価」としている。</p> <p>しかしながら、現段階で本園としては「第三者評価」は行ってはいない。今後は自己点検・評価が園の独りよがりのものでなく、公正・中立な立場の第三者の評価を通して、様々な意見や要望を整理・分析し、園の改善につなげていくような仕組みが求められることになろう。本園では、学院内に保育者養成を行う大学があることから、今後、幼児教育の専門家のご意見や評価なども伺うことができるシステムを構築していきたい。</p>

8. 幼稚園関係者による評価

課 題	具体的な感想・意見・提案
在園児保護者(8名(2020年度クラス委員))	
みどり幼稚園の点検評価について	<p>園の自己点検評価を拝見し、先生方全員で園児一人一人を把握し、発達や課題等について共通理解を持ちながら長期的な視点で指導して下さっているのがよく理解できました。とりわけ、園長先生が子ども達全員のことを覚えていて下さることが保護者としては嬉しく、素晴らしいと思います。</p> <p>先生方全員が子ども達のことをよく考えて下さり、より良い幼稚園に成長していく為に様々な課題に取り組んでおられることがよく分かりました。特に「年間保育目標」は、発達段階に合わせて、きめ細かい計画的な保育が行われていることが理解しやすくとても良いです。</p> <p>先生方の自己評価について、厳しい評価をされている部分もありますが、みどり幼稚園の先生は子ども一人ひとりを本当によく観察してくださっていると感じています。子どもをよく知っていて下さる先生達だから、教育目標にある「子ども自身が個性を伸ばし成長できるための環境作り」が実現できるのだとも思います。</p> <p>自己点検・自己評価について、子どもを預けている保護者に意見を求めて頂けることは、大変良い取り組みだと感じます。</p>
園の方針や取り組みについて	<p>昨年は例会等で園長先生や本田主幹のお話を伺ったり、園で過ごす子ども達の様子を見る機会が減ったことにより、園の方針や取り組みなどが具体的に保護者に伝わりにくい状況にあったように思います。</p> <p>昨年度の点検評価報告書の関係者(保護者)による評価にも載っていましたが、年間をⅧ期に分けた指導目標を保護者にも可能な範囲で知らせて欲しいと思います。また、先生方が共通理解していらっしゃる子どもの様子や課題について保護者も知る機会が増えると更に幼稚園と家庭が連携し、より良い協力関係がつけられるのではないのでしょうか。</p> <p>2020年度は様々な行事が中止や縮小となってしまいとても残念な一年でしたが、その中でも試行錯誤し対応いただきまして、大変感謝しております。行事の量につきましては、年少時は多いと思っておりましたが、年を追うごとに慣れてきてそこまで負担には感じませんでした。</p> <p>教育目標、保育目標を具体的に掲げ、日々の園生活において、「子どもにとって」を一番に考えて頂いていると日頃より感じておりました。コロナ禍において、何が正しいのか誰も分からない中、様々な意見があったかと思いますが、「プレイデー」、「お泊り保育」、「お餅つき」等、子どもたちにとっては貴重な体験になったことと思います。コロナが落ち着き、以前と近い生活が取り戻せた際には、より子ども達に様々な関わりの機会を持たせる取り組みをして頂ければと思います。</p>

みどり幼稚園の保育 について

私自身子どもを入園させてみて、とても素敵な幼稚園だと感じていますし、保護者へのアンケート結果にも教育・保育活動に良い印象が多かったように思います。時代のニーズに合わせることも必要でしょうが、この素晴らしいみどり幼稚園の教育や保育の在り方はいつまでも変わらず、このままの幼稚園であり続けて欲しいです。

先生方全員で園児一人一人を把握し、発達や課題等について共通理解を持ちながら長期的な視点で指導くださっていることがよく理解できました。

コロナ禍により例年通り行えない行事や中止になる活動も少なくない中、アンケートで保護者からの幼稚園への評価が変わらず高いのは、日頃の先生方による園児一人一人の個性や思いを大切にする保育が、子ども達にとって楽しい充実した園生活につながっているからだと思われます。

2020年度はコロナ禍により大変な年となりました。全ての計画が予定通り進まず先生方も苦勞された1年だったと思います。保護者にとっても行事も少なく幼稚園生活最後の年に母子共に寂しい思いもありました。ただ、他の幼稚園等でほとんど中止となった行事もその時期の最善の策を考え行ってくくださったことに感謝していますが、「他のところは自粛しているのにどうなの？」などと近所の方に声をかけられて戸惑ったこともありました。

教員の自己評価で「Ⅱ 保育のあり方、幼児への対応」の項「指導とかかわり」の評価が低いことに少々驚きました。先生方が園児一人一人に寄り添う保育を下さっているのを見てきたので、現状に満足せずさらに良くしていこうという姿勢に敬服いたしました。

共働き家庭の増加により行事への参加等保護者の負担を減らして欲しいとの要望もあるようですが、子ども達の経験を豊かにし成長のきっかけにもなるみどり幼稚園らしい魅力的な行事やプログラムが多数あると思いますので、保護者と先生方の負担を考慮しながら、またどうしても必要な場合は変更を加えながら継続して行って欲しいと思います。

みどり幼稚園に通わせている保護者の方から、入園説明会や見学した際の園長先生の園の方針や保育内容の説明が決め手になったという話や、実際通わせてみて気に入ったという話をよく聞きました。また、礼拝や集会などに参加したがない子どもに対して無理強いしない、その子どもの状況に合わせるという点も大変よかったです。

園長先生をはじめ、教員の方全員で子どもたちを見守り、自主性を尊重し温かく時に厳しく対応していく方針はとてもすばらしいと思います。時代、状況の変化に対応しつつもみどり幼稚園らしさを失わずにこれからも歩んで行ってほしいです。

みどり幼稚園の魅力の一つは、なんとと言っても先生たちの質(レベルの高さ)にあると感じています。補助の先生方も幼稚園の保育の方針をきちんと理解した上で関わって下さっていることは素晴らしいと思います。今後、教員の世代交代や人

	<p>件費問題に関連して、どうかその質が損なわれることのないようにできればと思います。</p> <p>経験豊かな先生方が多く、安心して子どもを預けることが出来ました。お迎えの際には、今日の様子等についてお声を掛けて頂いたりして、よく見て頂いていると嬉しく思っておりました。その反面、先生方は皆とても忙しそうであり、お便りや連絡事項等、家庭への連絡がギリギリだと感じる場面もありました。もう少し余裕をもって案内が出来るような体制も必要かと思えます。特に主幹の本田先生はお忙しすぎると思えます。</p> <p>いろいろな子ども達がいる中で、個性を尊重し見守ってくださる先生方には感謝しかありません。特にわが子が特性のある子でしたので、さまざまなご配慮がとてもありがたく感じました。そのうえで人数的にも手間的にも無理なお願いとは思いますが、視覚支援等個別の支援について、もう少し取り入れていただけたらありがたかったなと感じます。</p>
<p>園(保育者)と家庭(保護者)との連携について</p>	<p>様々な意見があるだろうが、みどり幼稚園の場合は特に保護者が園の方針をどれだけ理解して入園しているかが大切だと思う。そのためには入園説明会では園の基本的な方針を分かりやすく説明し、また未就園児親子クラスではみどり幼稚園の良さを肌で感じてもらうことがとても重要です。</p> <p>支援型幼稚園となった事でこれまでのような保護者の園活動への参加に変化がありそうですが、今後もみどり幼稚園らしさを残して下さるよう期待しています。</p> <p>共働きの家庭が増える中、親の負担軽減について、考え、取り組んでくれている姿勢が嬉しいです。毎月の例会出席は親には負担でもありますが、園長先生や本田先生のお話を聞くと、とても温かく優しい気持ちになります。私たち保護者が、最近の子どもとの関わり方を見つめなおす良いきっかけとなりました。家庭との連携の充実のためにも、この時間は本当に大切だと感じています。</p> <p>保護者アンケートからは、保護者の負担が大きい部分もあるが、みどり幼稚園らしさを高く評価し、子どもを通わせて本当に良かったと感じている方が多くいらっしゃる事が読み取れました。私も同意見です。</p>
<p>みどり幼稚園の施設について</p>	<p>施設の老朽化、防犯面の安全対策などの問題はできることから積極的に取り組んでくださると、より一層保護者の安心につながるのではないのでしょうか。</p> <p>創立 45 周年に向けて建て替え等の具体的計画を進めるとありますが、45 周年はもうすぐなので早めに方針を知らせてもらえた方が保護者はありがたいと思います。アンケートを取るなどして保護者の立場からもアイデアが出せたら、一緒に作り上げていけるので嬉しいのではないのでしょうか。</p> <p>報告書・アンケートにあるように老朽化に伴い危険な場所もありますが、定期点検や修繕を行っていただいているので、本格的な改修まで現状の通りでいいと思っております。園舎や水道、プレイルームに関する意見については、大規模修繕となりますのですぐに対応できないと思いますが、正門・裏門のセキュリティにつき</p>

	<p>ましては単独で対応できるのではないかと思います。</p> <p>施設、設備は老朽化が進んでいますが、清掃が行き届いていて安全にも注意を払って下さっているので特に不満はありません。門の施錠については、閉めたと思って閉まってない場合があるのできちんと閉まったか確認を徹底していくことが大事だと思います。</p> <p>施設設備についてですが、やはり目を逸らすことの出来ない老朽化が一番気掛かりです。園の課題としても捉えて頂いておりますが、子どもの命が直接的に関わってくることなので、収支面も踏まえた早急な対応をお考え頂ければと思います。併せて防犯面についても、システム導入の検討を早急に進めて頂ければと思います。</p>
<p>その他</p>	<p>毎回の保護者例会等での山川先生、本田先生、担任の先生方のお話は、聞いていて幼稚園での子ども達の様子が想像できるぐらい分かりやすく共感できる内容で、子ども一人一人をきちんと見てくれているという保護者の安心感につながっていると思う。</p> <p>みどり幼稚園での生活はかけがえのないものとなり、言葉では表現しきれない程の感動や経験、勉強をさせていただきました。これからも応援しています。ありがとうございました。</p> <p>事務所の方に関しましては、とても丁寧にご対応いただき大変助かりました。</p> <p>オリーブクラス(預かり保育)については、本当にお世話になりました。更なる時間延長の要望や意見も出ておりますが、先生方への負担等考えると、現状維持でよいのではないかと思います。また、給食につきましては、もともとお弁当がメインと分かった上で入園していますので、現状のままでいい気がします。給食に内容については、子どもにとっては少々渋い内容かなと思います。</p> <p>クラス委員については、すべてのことについて主幹を通す、まではいいのですが、昨年度は特に本田先生の仕事量が多く負担になってしまったのではないかと心配になりました。特にメッセージカードの情報がなかなか来ず、短い期間での準備が多かったように思います。</p> <p>コロナの影響の中、子どもたちになにができるかということを第一に考えられる限りの対応を幼稚園にさせていただいたと思います。子どもや教員の方のマスクの着用、コロナ禍での保育についても例会等で幼稚園から詳しく説明があったため、安心して預けることができました。また保護者の意見にも耳を傾け、話し合うという方針もよいと思いました。</p> <p>コロナ禍でマスクを着用する幼稚園がほとんどの中、保育の観点から教職員のマスク非着用という判断をした事に、目指す教育への強い想いを感じました。様々な意見があったと思いますが、そのおかげで子どもたちは幼稚園で普段どおりの生活が送れ、生き生き遊ぶことができていました。とても貴重な一年を送らせていただいたと感謝しています。</p> <p>今後、施設・設備の改善や保護者との連携のあり方についてなど、課題は多く</p>

	あるかと思いますが、良いことは変わらずに今後も益々発展していったらよい願っております。
卒園生（2名（現在、社会人40歳代…いずれもお子さん達がみどり幼稚園を卒園）） 卒園生保護者（2名（現在、小学校低学年、高学年、中学生、高校生の保護者））	
みどり幼稚園の点検評価について	<p>園が素敵な教育を行っているのは、教職員一人一人が神さまの言葉に耳を傾け、祈りつつ一人一人の子どもに関わってくださっていること、より良い教育を常に求めて高い水準で保育に向き合われており、質の高い園を維持されているからだと思います。</p> <p>今年の報告書では、先生方の保育に対するの考え、思いが温かく、コロナ渦でも今出来ること、コロナだからこそ出来ることをしてきた一年だったように感じられました。</p> <p>報告書を拝見し点検評価を作成することはとても良いと思いました。現在は在籍していないので点検評価の内容について意見はできませんが、今後もこのような取り組みを維持していただけたらと思います。</p>
みどり幼稚園の保育について	<p>私が卒園してから30年以上経ちますが、変わらず素晴らしい方針の中、教育がなされていることに驚きと、深い感謝を感じずにはいられません。子ども達や時代に合わせた取り組み、母が作ったスマック、家族で参加する行事は、特別感があり小さいながらも自分が大切にされていると感じられるものでした。</p> <p>みどり幼稚園に通わせた親として子どもを預けて感じることは、緑の多い大きなデコポコの園庭や、空箱で作る大きな作品や、ドロだらけで遊んだ経験などが一つ一つ今に生きているように思います。</p> <p>みどり幼稚園の教育方針の「遊び」と「他者を思いやる心」を変えずに昔も、今も、これからも、みどり幼稚園らしさが続く事を心より願います。（保護者がみどり幼稚園の教育を理解して入園するなら、世間からは少し変わった幼稚園と思われるのもいいと思います。）</p> <p>時代の変化に対応しつつ、しかしみどり幼稚園の今までの保育を今後も維持していくことを期待しております。そしてどうか園庭はあのままです。また、色とりどりのスマックも！</p>
保護者との関わりについて	<p>保護者の要望と園の関わりについては、「子育て支援型幼稚園」に認定され、オーリーブの運営拡大がなされたことから、「みどりなら安心」という保護者からの期待も理解できます。また、給食日の追加や行事の縮小など家庭の負担軽減という点では、必要なことだと思います。しかし、子どもの成長において親の関わり方は大きく影響し、重要であり、単純に園側が負担すればいいという問題ではないと思います。「生活の基盤は家庭にあり、園生活と家庭環境は切り離せない」という園の考え方を家庭と共有し、園と家庭の両方で子どもを育てていくような「親育」なるものを推進していくことも重要になってくるかもしれません。</p>

	<p>これからも、閉鎖的でないように、風通しがよい開かれた幼稚園であり続けてほしいと思います。</p> <p>私は先生たちに本当に助けられました。長女の時、子どもとどう向き合っているかわからず面談で先生に泣きついたこともありましたが、遠い昔のことにも思えますし、つい先日のようにも思えます。きっと今の保護者の中にも、子育てで困難を覚えている人が多いと思います。そのような方々の力になってあげられる幼稚園であって欲しいです。</p>
<p>みどり幼稚園の施設・設備について</p>	<p>施設の老朽化の改善とセキュリティの見直しが必要ではないでしょうか。子どもを預けるうえで、「安全」が一番です。費用の捻出等の課題もあるかと思いますが、最善がなされることを祈っています。</p> <p>老朽化と安全対策が一番の心配です。設備を改装するハード面と、地域の方々との関わりを深めソフト面でも対策できればと思います。</p>
<p>その他</p>	<p>全体の感想として教職員の負担が大きいと感じます。誠心誠意、向き合ってくださいているからこそ、職員の心身のケアと、実務の改善は急務かと感じています。</p> <p>今でも、私はみどり幼稚園が大好きであり、私の成長の土台にみどり幼稚園があったと実感しています。そんなみどり幼稚園の良さが、今後ますます理解され、主にあって用いられますようお祈りいたします。</p> <p>報告書の中ではみどり幼稚園を選んだ親としてのさまざまな意見があり、みどり愛を感じました。</p> <p>私の会社の工場でも、第三者(保険会社)による安全点検をしてもらい、自分たちでは気付かない意外な危険箇所や改善を要する所に気づかされました。みどり幼稚園でも実施されてはと思います。</p> <p>みどり幼稚園で過ごし、思いやり、個性を大切に考える考えが3人の娘に生まれ充実した小学校生活送ることができています。</p> <p>卒園生、また元保護者として、今後も積極的にみどり幼稚園の行事に関わられたらと思います。また、今後施設を改修してもみどり幼稚園らしさを失わないようにして下さい。</p> <p>なるほど、わが子が在籍していた時もきっとこのようなアンケート内容になったのではないだろうか、ほとんどの方が幼稚園に満足と読み取れました。私個人の意見も同様で、すてきな庭、雨の日の散歩、自由に走る子ども達、魅力的なことばかりでした。子ども達をみどり幼稚園に通わせてよかったと今も思っています。</p>

《関係者評価について》今回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、関係者には園の自己評価結果をお送りし、ご意見や感想をお寄せいただきました。また、お送りいただいた原稿については、原文のままではなく内容を変えない範囲で若干の修正を加えています。

聖学院みどり幼稚園 「2020年度幼稚園生活アンケート」の集計報告

2020年度3月に年少から年長までの全ご家庭を対象に「幼稚園生活アンケート」をお願いしました。その集計ができましたのでご報告いたします。アンケートの回収率は、年長 28/36(78%)、年中 27/34(79%)、年少 19/30(63%)でした。なお、寄せられたご意見・ご感想は原則として全て掲載していますが、表現を多少変えているもの、またほぼ同様の内容のものについては割愛させていただきました。また、いただいたご意見等はそれぞれ個人のものであり、全く正反対の内容のもの含まれていましたが、保護者の皆様の生の声として掲載させていただきました。本園としては一つ一つのご意見等に真摯に耳を傾けつつも、しかし、様々な事情でご希望の通りにはできない場合も多くあり、それらは将来に向けての課題とさせていただきますと存じます。今後共、みどり幼稚園の教育・保育活動にご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

園長補佐 山川秀人

質問 1 今年の卒園は、みどり幼稚園児としてご家庭で何人目の卒園ですか(年長のみ)

- ア. 初めて…18人
- イ. 二人目…10人
- ウ. 三人目以上…0人



質問 2 本園の施設や設備等について

(1) 施設・設備全般についての評価(年長のみ)

- ア. 良い…4人
- イ. 普通…9人
- ウ. 良くない…0人
- エ. 老朽化が進んでいる…15人



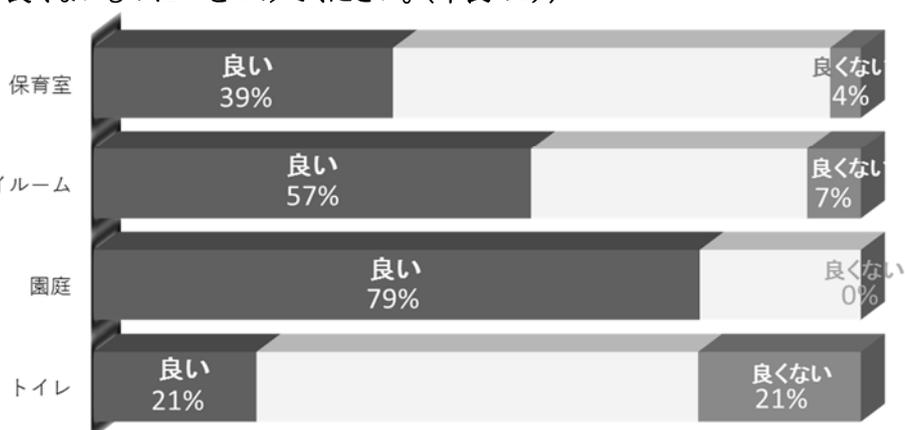
(2) 施設の内、良いものに○、良くないものに×をつけてください。(年長のみ)

【良い】

- ア. 保育室…11人
- イ. プレイルーム…16人
- ウ. 園庭…22人
- エ. トイレ…6人

【良くない】

- ア. 保育室…1人
- イ. プレイルーム…2人
- ウ. 園庭…0人
- エ. トイレ…6人



(3) 施設に関するご意見(全学年)

- ・園の老朽化は気になりますが、土台はしっかりして耐震も問題がないとのことですので、大規模な修繕を行う間、子どもたちをどのように過ごさせるかなど悩むところも多いと思うので、もう少しはこのままでもよいと思う。
- ・施設は老朽化が進んでいますが、清掃が行き届いてきれいになっていると思います。
- ・老朽化は進んでいますが、耐震性に問題がなければとりあえず安心です。
- ・正門脇の自転車駐輪場の出入口に扉をつけて欲しい。子どもが中に入り駐車中の自転車に乗っていたことがありました。
- ・雨の日など正門から自転車での出入りが少し大変です。
- ・園舎二階のベランダに通じる窓などの施錠をお願いします。子どもが鍵を開けてベランダを歩いている場合があります。
- ・花壇がもっと広いとより良いと思います。
- ・トイレや水道などの水回りについては、特に今年は冬場の手洗いの機会が多かったと思うので、お湯が出ると良いと思います。
- ・トイレは、ライトの数とか色などを改善してもう少し明るい印象だと良いと思います。《トイレが暗いとの意見はこの他2件》
- ・トイレ(大人用?)の水が流れにくいと感じます。

- ・大きい地震があった時に窓が多い保育室のガラスの飛散が心配です。
- ・西側のフェンス際に以前のように木などを植えて欲しい(植栽)。住宅が建ち始めると丸見えだと思います。
- ・施設が古い仕方ないのですが、今後明らかに怪我しそうな場所などがあれば随時直して欲しいです。
- ・大学の駐車場から園までの足場が良くない。《他に大学駐車場の橋付近の段差が気になるとの意見 1件》
- ・保護者トイレの修理、プレイルームの保護者トイレの増設をして欲しい。また一箇所でもベビーキープをつけて赤ちゃんを連れて入れるようにして欲しい。
- ・要改善としては水回り全般です。園舎が古くなってきているのでなんとかして欲しいです。
- ・園庭は四季の変化を感じられ、広々としていて子どもが自由に遊べる場所がよいです。
- ・園庭の真ん中に以前あったような木の切り株をまた置いて欲しい。
- ・庭の木の名前プレートが字が消えてしまっているため、読めたら良いと思います。
- ・夏場は蚊がすごく多い。色々対策して下さいますし自然が豊かな園ならではと思います、何か良い対処法があればと思います。
- ・外の遊具(アスレチックジム?)が古くて木が欠けていたりして少し危ないと思います(園長先生が直して下さいだいたい良くなりましたが…)。《他に同意見 4件》
- ・園庭の遊具は長く使っているものが多いので、幼稚園から帰ってくると手に木のトゲがささっていることがよくあった。
- ・園庭では木登りができたり、果物の収穫ができたりと、普通の幼稚園では体験できなかったでしょう。
- ・幼稚園で子どもが自転車に乗れるようになりました。ありがとうございました。
- ・プレイルームは掃除がしっかりされていて気持ち良いです。とても良いのですが、ただ床が少し怖いです。
- ・プレイルーム裏の新しい土地の活用に期待しています。
- ・今後プレイルームの裏の敷地がどんな使われ方をするのか楽しみです。ピオトープができれば素敵だと思います。

(4) 遊具や絵本等の設備・備品についてのご意見(全学年)

- ・遊具や絵本等については、適宜良いものをそろえて下さっているのでも十分だと思います。《他に同意見 2件》
- ・園の絵本の貸し出し(保護者も選べるとよい)をして欲しいです。《他に同意見 2件》
- ・おもちゃの種類は多いのでとても良いと思います。
- ・遊具やおもちゃはキャラクターものばかりでないのがよいと思います。
- ・おもちゃはシンプルでとても良いと思います。また、絵本は保育の中でどんな本を読んでいるのか、たまに子どもから聞くこともあります。親としては知りたいです。
- ・昔の絵本なども多くあり、とても良いと思います。子ども達を読む機会がもっと増えたらうれしいです。
- ・園児が一から作り上げるものや素材がよくそろっていてとても良いと思います。
- ・年季が入っている遊具や備品も、よく整備されていてきれいで使いやすいです。
- ・二階の絵本コーナーは充実していて良いです。特に図鑑を見ることができて子どもにとって大好きな場所でした。
- ・遊具やおもちゃは必要最低限でよいと思います。

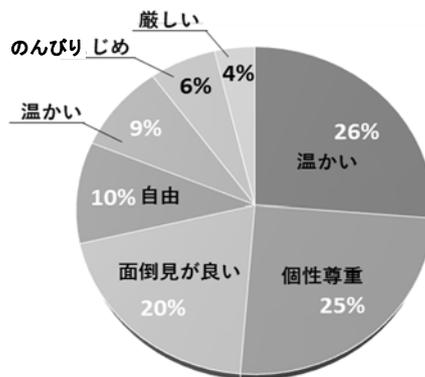
幼稚園から

施設や設備に関しては、築 40 年を超えているため老朽化が進んでおり、そのことを指摘される方が多くありました。特に水回りに関しては配管自体の問題があり本来ならば全面改修が必要です。園としては財政的な側面もありますが、まずはプレイルーム、続いて園舎の建て替えや改築等を 45 周年事業として検討を行っているところです。そのため、現在不具合が発生しているものについては、子ども達の安全を第一とし、また最低限の利便性などを考慮しながら小規模な修繕を行うようにしています。また、アスレチックジムについては木部が古くなっており怪我の不安もあるため、新年度も補修を継続していきます。新しく譲り受けた土地については、現在のところ畑や花壇、運動場などのことを考えていますが、良いアイデアがあればご教示下さい。なお、保育室やプレイルームの窓の安全性についてはガラスが破損した場合を想定して飛散防止シールを貼っています。

質問 3 本園教職員の対応について

(1) 教員全体の印象(年長)

- ア. 面倒見がよい…16 人
- イ. 温かい…21 人
- ウ. 厳しい…3 人
- エ. 自由…8 人
- オ. 個性尊重…20 人
- カ. のんびり…7 人
- キ. まじめ…5 人
- ク. いい加減…0 人
- ケ. 冷たい…0 人
- コ. その他…0 人



(2) 園長・主幹の対応(年中、年少)

- ア. 良い…42 人
- イ. 普通…3 人
- ウ. 良くない…0 人



【ご意見】(全学年)

- ・大勢いる子ども達一人一人をよく見て下さり感謝です。
- ・子どもから「園長先生と遊んだ」と嬉しそうに報告を受けました。ありがとうございました。
- ・苦情を言ってもよく聞いて下さりありがたかったです。
- ・毎朝玄関前で子どもの名前を直接呼んで挨拶して下さるのがとても温かい気持ちになります。子どもも楽しみにしています。ありがとうございます。《他に同意見4件》
- ・園長先生がどこにいるか分からないのではなく、いつも顔が見える幼稚園で素晴らしいと思います。
- ・いつも頼りにさせていただいています。ありがとうございます。
- ・例会での園長先生のお話で子どもとの接し方など色々なヒントになっています。また、本田先生のお話からは先生達が子どもの様子を一人一人丁寧に見て下さっているのがよく伝わりました。例会のお話を毎回楽しみにしています。
- ・園長先生が毎朝挨拶して下さるのが素敵です。
- ・園長先生はとてもやさしくて子どもも大好きです。

(3) クラス担任・補助教員の対応(年中、年少)

- ア. 良い…43人
- イ. 普通…3人
- ウ. 良くない…0人



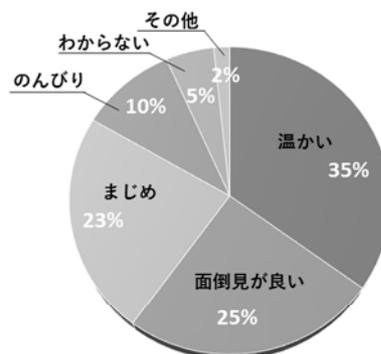
【ご意見】(全学年)

- ・コロナ禍により大変なご負担があるなか、いつも変わらず温かいご指導をいただき、先生方にはとても感謝しています。
- ・子どもの性格や成長などをよく丁寧にみて下さっている。また、怪我などの報告もしていただき、全先生達がみんな子ども達を見守る形を今後もお願いしたいです。
- ・いつも親切に対応して下さいありがとうございます。
- ・時々、担任の先生以外の先生とも遊べることで、学年を越えて子ども達を見て下さっていることをとても嬉しく思います。
- ・担任の先生だけでなく、他学年の先生にも見守っていただけ安心です。
- ・(バスで?)泣いて登園したときや、手当をした怪我などは報告して欲しいなと思います。
- ・緊急事態宣言中にも拘わらず、先生達だけでお餅つき会を実施していただくなどとてもありがたかったです。少しお忙しいくないか心配になることもあります。
- ・遊びの中で、いつも先生が指示するのではなく、子ども主体で見守る姿を見てとても良いと思いました。また面談でも、色々な悩みを聞いてもらえてありがたかったです。
- ・補助の先生たちはとても優しい。
- ・先生達は親も気づいていない子どもの特性を見抜いていて、本当によく見て下さっていると思います。
- ・子どもたちをよく見てくれてありがたいです。《他に同意見3件》

(4) 事務・その他職員の対応(全学年)

○全体の印象(年長)

- ア. 面倒見がよい…15人
- イ. 温かい…21人
- ウ. 厳しい…0人
- エ. のんびり…6人
- オ. まじめ…14人
- カ. いい加減…0人
- キ. 冷たい…0人
- ク. わからない…3人
- ケ. その他…1人(親切)



○事務職員等の対応(年中、年少)

- ア. 良い…41人
- イ. 普通…5人
- ウ. 良くない…0人



【ご意見】(全学年)

- ・ご多忙な際も、機敏に親切、丁寧な対応をしていただけるのでありがたいです。《他に同意見2件》
- ・バスの補助をして下さる方の中に静かな方がいらっしゃいます。子どもながら楽しく過ごすことを望むようですので、いつも明るくニコニコしていて欲しいです。
- ・急なバスの変更や休みの連絡を取り次いでいただきありがとうございます。
- ・いつも優しい雰囲気、保護者だけでなく子ども達とも接して下さっていて良かった。
- ・バスの添乗員の方で、時々目を合わせてくれない方がいて少し気になります。

幼稚園から

本園の教職員の対応については、全体として9割程度以上の方が良いと評価して下さいました。教員に関しては、「温かい」、「個性尊重」、「面倒見が良い」が、また事務職員等については、「温かい」、「面倒見が良い」、「まじめ」がそれぞれ過半数を超えた方が選ばれています。なお、教員への評価では厳しいというご意見も若干

ありますが、保護者の方からはもっと厳しくやって欲しいとの要望が出されることもあり、単なる甘やかしではなくメリハリのきいた指導を今後とも続けていきたいと考えています。子どもの怪我等の連絡は必ず行うようにしていますが、もし抜けていた場合があったとしましたら心よりお詫び申し上げます。教職員間の連携を徹底したいと存じます。

質問 4 ▶ 本園の保育内容について

(1) 遊びの中から興味を持ち、自発的に考える力や対人能力を身につける保育

【年中・年少】

- ア. 良い…44人
- イ. 普通…2人
- ウ. 良くない…0人



【年長】

- ア. 良い…2人6
- イ. 普通…2人
- ウ. 良くない…0人



【ご意見】(全学年)

- ・子どもたちが園庭で遊んでいる姿は、とてもものびのびしていて私自身も幸せをもらえました。
- ・特に対人能力については、色んなお友だちと遊ぶことにより、身につけてきていると感じています。
- ・自然豊かな園庭にある自然のものを使って日頃から遊べて素敵だなと思います。
- ・思うように遊べるよう設定を考えて下さり、子ども達はとても楽しそうです。
- ・子どもの興味を引き出し、何でもやらせてもらえる(他園では禁止事項が結構多い)ことに感謝しています。
- ・子どもが遊びから学ぶことは本当に大切だと改めて思いました。
- ・ブランコをもう少し増やして欲しいです。
- ・広い庭にたくさんの植物や生き物がいるので、それをもっと保育に活用してもらいたいと思いました。葉っぱや虫の種類を覚えたり、それらを使った作品や道具などの製作など、自然の中の知恵や知識をもっとたくさん知って欲しいです。
- ・スキルアップスポーツクラブで行っているようなことを外部から講師を招き、保育にも取り入れて欲しいです。
- ・イングリッシュタイムは先生がお休みの時に中止にするのではなく、代わりに先生に来ていただくなど子どもが楽しみにしている時間をぜひ確保して欲しいです。
- ・もっと勉強する時間(年少でひらがなが読めるくらいまで)があってもよいと思います。

(2) 神さまを礼拝する心を養うと共に人に奉仕する精神を育てる保育

【年中・年少】

- ア. 良い…39人
- イ. 普通…6人
- ウ. 良くない…0人



【年長】

- ア. 良い…22人
- イ. 普通…6人
- ウ. 良くない…0人



【ご意見】(全学年)

- ・こどもさんびかを自然に口ずさんだりする子どもの姿を見て感動します。
- ・キリスト教教育のおかげで他者を思いやる心が育っているように感じています。
- ・きちんと挨拶ができる子につながると感じます。
- ・キリスト教についてはよくわからないので評価できません。

(3) 幼児として身に付けておきたい基本的な生活習慣を身につける保育

【年中・年少】

- ア. 良い…41人
- イ. 普通…4人
- ウ. 良くない…1人



【年長】

- ア. 良い…21人
- イ. 普通…6人
- ウ. 良くない…1人



【ご意見】(全学年)

- ・手洗いの徹底はされているので、今のところ満足です。
- ・自ら片付けることが家庭でも増えました。

幼稚園から

本園の保育内容について、遊びを大切に遊びの中から子ども達の成長を支援していく保育(非認知的能力の育成)に関しては、殆どの方が良いと評価下さいました。ただし、そのような中であってやはり知識教育(認知的能力育成)の時間も増やして欲しいとのご意見も多少ながら見られました。園としては学びを大切にしたいと考えていますが、その学びは小学校の模倣や先取り教育ではなく、また単に知識の獲得のためのものではないと考えています。

す。さらには、子ども達自身が興味や関心を持った場合にはそれをお支えしますが、それは個人差が大きく全体を同じように行うことは難しいと考えています(個性重視の保育)。ただ先生から教えられた通りにできるようになるのではなく、自ら学びに興味を持てるようになることを教育の目標としています。ご理解いただければ幸いです。

次に、礼拝を中心としたキリスト教保育に関しては、人間教育の一環として良い評価をして下さっている方も多くいらっしゃいますが、園としては保護者の皆様に幼児教育におけるキリスト教の関わりについての意味と意義を一層ご理解いただけるようにしていく責任と必要性を感じています。

また、幼児としてこの年代の子どもとして身に付けておくべき基本的な生活習慣の獲得のための保育に関しては、良くないとの評価も若干ですがいただいていることは反省点だと考えています。ただし、近年は幼稚園へ入園する時点でその年齢に応じた成長や発達が不十分(様々な障がいとは別に)である場合も見られますが、保育所とは異なり幼稚園としては特に社会的集団活動の中での生活習慣や社会適応性を重視しており、本来各ご家庭で行うべき部分とある程度区別して考えて行く必要もあるのではないかと思います。そのためにもご家庭と園との連携はとて重要だと考えています。

質問 5 本園の行事について

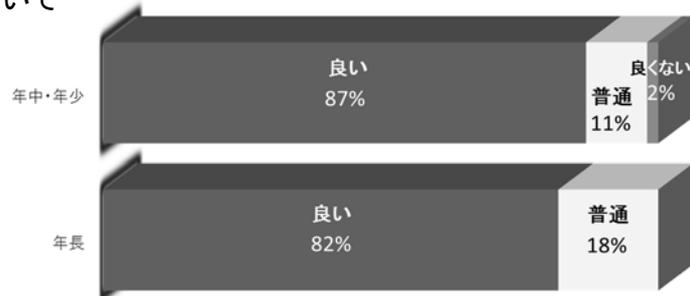
(1) 行事全般について

【年中・年少】

- ア. 良い…40人
- イ. 普通…5人
- ウ. 良くない…1人

【年長】

- ア. 良い…23人
- イ. 普通…5人
- ウ. 良くない…0人



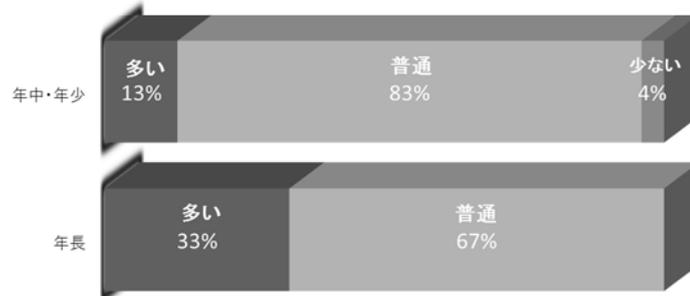
(2) 行事の量について

【年中・年少】

- ア. 多い…6人
- イ. 普通…38人
- ウ. 少ない…2人

【年長】

- ア. 多い…9人
- イ. 普通…18人
- ウ. 少ない…0人



(3) 行事についてのご意見(全学年)

- ・今年はコロナの影響の中でもできる限りの行事を行ってくださり、幼稚園生活最後の経験や思い出ができて良かったです。
- ・行事への親としての参加は減ってしまい寂しかったが、今年についてはそれが最善策だったと思います。このような状況でも行事を行ってくださった先生方の英断に感謝します。
- ・コロナで行事が少なくなりましたが、プレイデーやお泊り会ができ、子ども達はとても良い経験をする事ができました。本当にありがとうございました。
- ・食事(会食)のある行事がコロナでなくなって少しホッとしました。親の負担も一番そこかなと思います。このご時世、コロナが収まるまで「なし」だと助かります。
- ・コロナ禍の中、子どもたちにいろいろなイベントをしてもらってよかったです。
- ・行事の数が多すぎると感じました。
- ・運動会(プレイデー?)を天候に左右されることがない月にして欲しい。仕事を休日(土日)にしている家庭は何度も休みを出さなくてはならないので、正直きついです。
- ・今年はコロナによって保護者が参加できない行事もあって残念でしたが、先生方のご尽力によりいつもとは違う形でできた行事については、子どもは大満足でした。特にお泊り会ができてうれしかったようです。
- ・コロナによって行事がほとんど中止となってしまった幼稚園が多い中で、子どもたち中心に必要なことや可能性を考えて行っていただき本当に感謝です。
- ・行事では、毎回子どもたちが本当に楽しんでいる姿が見られてとても嬉しかったです。
- ・子どもが調理をする行事やお誕生会などで大人が調理する行事では、コロナに関係なくエプロンや三角巾の他にマスクを着用した方がよいと思います。子どもについては爪を短く切っておくことも大切かと思いました。
- ・親参加の行事が多いかなと思います。
- ・今年はコロナ禍のため料理の持ち寄り(会食)が中止になったが、少し気が楽になってよかった。
- ・お芋ほりはサツマイモの他にジャガイモと一緒にできると、葉の付き方などが比較でき、良い体験になると思います。
- ・行事毎に子どもの成長を感じています。園として色々工夫してやっていただき、本当にありがとうございました。
- ・今年はコロナの影響で行事がたくさん中止になりとても残念でした。《他に同意見5件》
- ・コロナの影響の中にあっても、色々工夫しながら可能な限り子ども達が参加できると良いと思います。
- ・保護者のお手伝いなく先生達だけの行事実行には心より感謝しています。子どもの心に残ることでしょう。コロナが落ちつき、通常通りの行事ができるようになるよう祈っています。

- ・親に見せるための行事ではなく、保育の延長としての行事ということで子ども達がのびのびと楽しんでいる姿がとても印象的でした。来年度はもっと色々な行事ができると良いですね。
- ・小さい子どもがいる間は行事参加は少し大変でした。夫も仕事のことが多く周りのママに助けてもらいました。園としてのサポートがあると良いと思います。
- ・先生方はとてもお忙しいとは思いますが、行事の実施などの連絡(持ち物や行事内容など)をもう少し前もって教えていただくと準備などが早めのできるの助かります。《他に同意見2件》
- ・みどり幼稚園の行事は、家庭や他の園では体験できないことが多くあり、とても良いと思います。
- ・コロナ禍の中、子どもたちのために「精一杯の工夫で様々な行事をしていただきありがとうございます。来年度も対策や縮小などの工夫をしながら、保護者も参加して様々な行事ができたらうれしいです。
- ・土日はしっかり休むべき(振替で月曜休みが多すぎる)。また、今年のお餅つきのように園児と先生方だけで行うのがよい(保護者の参加行事が多い)。

幼稚園から 2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で多くの行事が中止となったり縮小せざるを得ない状況でした。普段みどり幼稚園では親が関わる行事が多い、負担が大きいとの評価をいただくことが多いのですが、その意味で今年のアンケートでは行事の量は「普通」という評価が最も多かったものと思います。ただし、年長については「多い」という評価も少なくはありませんが、これは2020年度は特別であったため例年のことを考えて判断された方も多かったのではないかと思います。みどり幼稚園では行事は保護者に見ていただくものというよりは、普段子ども達だけの園生活に保護者の方も加わっていただき、一緒に楽しく過ごすことを目的の一つとしています。多くの方はそのことをご理解下さり、行事に参加されることを楽しみにしていらっしゃる場合が多いと思います。また普段の子どもの様子を見ることが出来る良い機会ともなっているのではないのでしょうか。しかしながら近年は共働きのご家庭も増え、行事のためにお仕事を休まなければならないことに負担感を感じていらっしゃる方も増えつつあります。特に土日にお仕事をされている方には負担は大きいようです。また、関東では晴天率が最も高いのは11月から2月の冬場になりますが、それ以外で比較的晴天率が高いのが8月と10月であり、プレイデーなど特に屋外で行いたいと考えている行事の日程はその点も考慮して考えています。ご理解いただければ幸いです。行事等の詳細な連絡の遅れについてはそれぞれお忙しい中にあることを考えると申し訳なく、お詫び申し上げます。特に昨年度は、コロナ禍にあつて中止の判断をすることはたやすいのですが、ギリギリまでどのようにすれば実施可能かなどの検討を続けたこともありました。今年度につきましては、可能な限り迅速な判断を行えるようにしていきたいと考えています。

質問 6 ▶ その他

(1) オリーブクラス(朝夕、長期休暇中の預かり保育)について

【年中・年少】

- ア. 現在のままで良い…43人
- イ. 必要ない…0人
- ウ. 期間や時間の拡大…2人

年中・年少



【年長】

- ア. 現在のままで良い…26人
- イ. 必要ない…0人
- ウ. 期間や時間の拡大…1人

年長



【ご意見】(全学年)

- ・お盆や年末年始、GWなどお願いしたい。
- ・卒園生を対象とした学童(夜7時まで)をやってもらえないだろうか。
- ・30分単位でできるとありがたいです。
- ・年末もギリギリまでやって下さってありがたかったです。
- ・オリーブクラスは冬場は暗いので、例えば時間を決めてバスを出すなどして下さるとありがたいです。
- ・土曜日もやって欲しい。

幼稚園から オリーブクラス(預かり保育)については、殆どの方が現状に満足して下さっているものと存じます。その上で、それぞれのご家庭などの事情から色々な要望を出して下さっていますが、費用負担の面や保育者の確保など園としては十分検討した上で、可能な部分については今後対応していきたいと考えています。

(2) 給食(週2回(午後保育のある水・金)実施)について

【年中・年少】

- ア. 現在のままで良い…29人
- イ. もっと増やして欲しい…15人
- ウ. 給食は必要ない…2人

年中・年少



【年長】

- ア. 現在のままで良い…19人
- イ. もっと増やして欲しい…8人
- ウ. 給食は必要ない…0人

年長



【ご意見】(全学年)

- ・給食を木、金でお願いしたい。
- ・給食の量を学年によって増やして欲しい。
- ・夏休みだけでなく春や冬の長期休暇中の給食もあると良かった。
- ・給食よりお弁当のほうが多い幼稚園なので、簡単なものでも子どもたちには感謝の気持ちが育ち、保護者も少し大変だけれど子どもから喜ばれると嬉しいと思います。
- ・給食は小学校の給食の練習になり大変助かっています。毎週水曜日も給食にしていただけると嬉しいです。特に年長さん達には。
- ・給食は週3日くらいにしていただけると嬉しいです。
- ・ぜひ週4日の給食をお願いします。
- ・お弁当を作るのが大変なので、週3回は給食にしていきたいです。

幼稚園から

給食については、学年が低いほど増やして欲しいとの要望が強くなっています。本園が子育て支援園となったことで共働き世帯が増えたこと、小さいお子さんに好き嫌いなくなんでも食べて欲しいなど、様々な事情があると思われませんが、本園としてはお昼のお弁当は大切な食育の一環だと考えています。子ども自身は保護者の作ってくれたお弁当が大好きですが、大好きなものを友達や先生と一緒に楽しくいただくことは大切です。もし、ご家庭での食事が楽しくないならば幼稚園で給食を喜んで食べることができるといいでしょうか。園では普段食べたことのないものでもできるだけは食べてみようと思導していますが、まずはご家庭での食事が楽しいものであり親子の良い関係を作る大切な時間となって欲しいと思います。食事は生きる上での基本であって知育・徳育・体育の基礎となるものと言われます。生活の基礎作りに役立つ食事の時間が子ども達にとって待ち遠しく楽しいものであって欲しいと思います。ただし、前述しているように保護者の方の負担もあり、園としては新年度から曜日によっては希望給食の日を作って対応しています。

質問 7 全体評価(年長)

(1) 子どもにとってみどり幼稚園は何点?(10点満点)

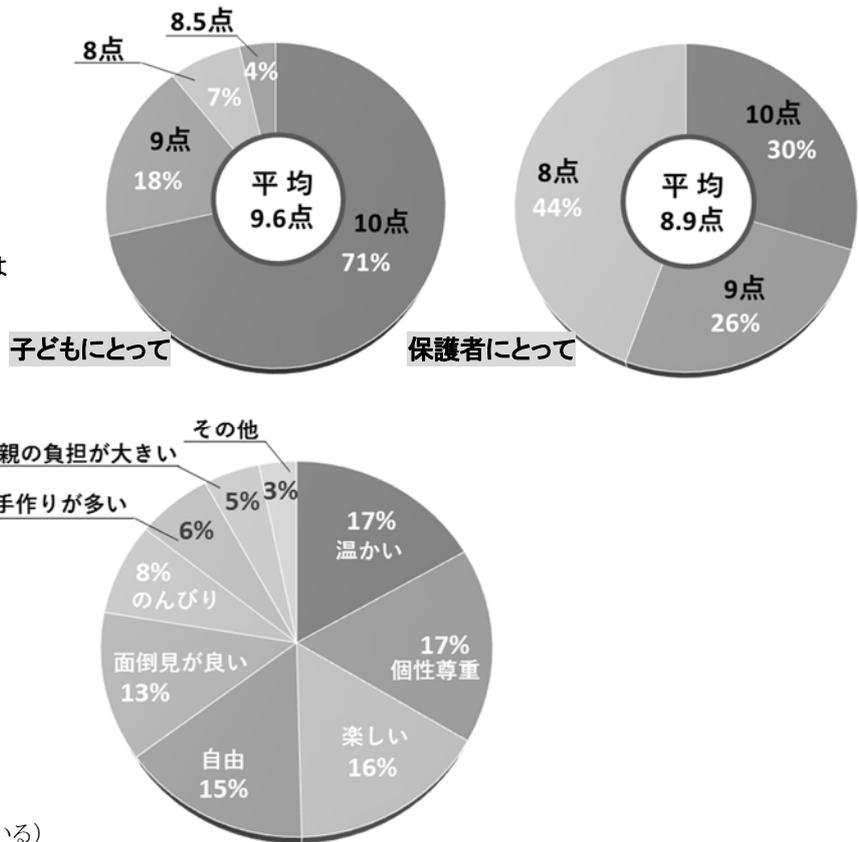
- 10点…20
- 9点…5
- 8.5点…1
- 8点…2

(2) 保護者にとってみどり幼稚園は何点?(10点満点)

- 10点…8
- 9点…7
- 8点…12

(3) 本園の全体的印象

- ア. 面倒見がよい…16人
- イ. 温かい…21人
- ウ. 楽しい…20人
- エ. 厳しい…1人
- オ. 自由…19人
- カ. 個性尊重…21人
- キ. のんびり…10人
- ク. まじめ…2人
- ケ. いい加減…0人
- コ. 冷たい…0人
- サ. 手作りが多い…8人
- シ. 親の負担が大きい…6人
- ス. その他…1人(自然に溢れている)



【その他自由記述】(全学年)

- ・手作りなど親の負担は大きいですが、子どもにとっては最高の幼稚園だと思います。
- ・子どもの良いところを存分に伸ばしていただき感謝しています。
- ・親の負担が多くて少し大変でした。手を抜きたくても子どもの期待に応えたくなり頑張ってしまう。その意味では子どもだけでなく親としても随分成長させられたと思います。他幼稚園では経験できなかったでしょう。3年間本当にありがとうございました。
- ・子どもが一番欲している友達と遊ぶこと、遊ぶ場所、これがかなって本当に良かったです。生活のしつけとかお勉強など

- は家庭内やお金を払えばできることですが、子どもが自由に友達と遊ぶことができるのは、今一番難しいことなので、みどり幼稚園で幼児らしい生活ができて良かったです。
- ・年中からの転園でしたので馴染めるか不安でしたが、初日から楽しんで通ってくれました。一人目からみどり幼稚園に入れたかったと後悔するほど満足しています。本当にありがとうございます。
 - ・月間絵本の購入は希望者のみにしてほしいです。自宅に絵本がたくさんあり、毎週図書館にも行くので定期購入する必要がありません。届く本も良本とばかりとは言えず不満があります。選ぶ本に偏りが出るとのことでしたら、園側から絵本だよりなどの情報発信をする方法もあるのではないのでしょうか。
 - ・みどり幼稚園にして本当に良かったと思いました。保育や遊びを強制しないで、子ども一人一人のやりたいことを尊重してくれたおかげで、3年間楽しく通うことができました。
 - ・園長先生や先生たちは担当クラス以外の子ども全体の名前と顔を覚えていて本当にすごいと思いました。
 - ・コロナ禍になり、ほかの幼稚園に比べてマスクを必須着用としていないことなど少し不安もあったが、小規模でアットホームな園で子どもたちにとっては本当に良い環境かもしれません。
 - ・入園前はみんなと仲良くできるのか、一緒に遊べるのか、とても不安でしたが、心配することなく3年間過ごすことができました。本人の意思を尊重して対応していただき、子どもも嫌がることなく通園できたのは本当に良かったです。お世話になりました。ありがとうございます。
 - ・先生方のたくさんの配慮のおかげで、子どもにとっても大切な体験・経験ができ、みどり幼稚園で本当に良かったと思っています。ありがとうございます。
 - ・コロナの影響で年長という大きく成長する時期に、家ではどこかに連れて行ったり活動の幅を広げることができずもどかしい気持ちでしたが、幼稚園に行けば子どもが思いきり遊べ、成長の糧となる行事も体験することができて、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。
 - ・夏休みには園庭開放がありますが、冬休みや春休みもやっていただけると保護者としてはありがたいです。長期休みは公園が小学生の大きい子どもたちが増えて、ボールが飛んできたり、人とぶつかってケガをしたこともあり、園庭なら安心して遊ぶことができて良いと思います。
 - ・体操クラブの指導員の方が、みどり幼稚園の教育方針とそぐわない印象を持ちました。
 - ・親向けの講座をいろいろ開いていただきたいです。例えば「性教育」や「メディアと子ども」など。
 - ・コロナという大変な状況の中でも、一年間子どもたちが伸び伸び楽しく過ごせたことを、とてもうれしく思います。様々な配慮を下さった先生方一人一人に感謝します！！
 - ・自分が子どもだったら絶対に通いたい幼稚園です！
 - ・コロナ禍の中でも子どもにはなるべく普段通りの生活をさせたかったので、みどり幼稚園に入れて本当に良かったです。
 - ・最初の緊急事態宣言の時は家族で戸惑いましたが、園庭開放をしていただき、居場所があって子どもも親も救われました。ありがとうございます。
 - ・コロナの影響で先生方の負担が増えているであろうことが心配です。大好きなみどり幼稚園がこれからもずっと今のまま続いていけますように、お世話になった先生方がいつまでもお元気で働ける環境であってほしいと願っています。
 - ・親子ともにみどり幼稚園に通えて幸せな日々を送ることができました。ありがとうございます！！
 - ・入園前に手作りが多いと聞いていたのですが、作るのが好きだったので楽しかったです。子どもにも喜ばれましたし。
 - ・バスの停留所の場所が分かりやすいように、各々のルートに掲載した地図を作成し配布していただけるとありがたいです。特に臨時利用する時などはとても便利です。外出時の予定も立てやすいです。バス停名称だけでは何処なのかよくわからないため。《他に同意見2件》
 - ・コロナについては活動制限があるなか、できる限りの保育をして下さり心より感謝しています。
 - ・卒園式に年中さん達も列席できて、子ども心にもこれから年長になる期待を持たうよう良かったです。
 - ・誕生日会や普段の生活の中で、幼稚園で撮影した写真を販売してもらえると嬉しいです。
 - ・グラウンド側入り口（裏門）の事務所前伸縮式扉の開け閉めがやりにくい。両手を使わないと開けられず小さなお子さん連れの方などは使いにくいのではないのでしょうか。子どもも手を挟んだことがあります。特に雨の日は上からの雫で濡れる位置なので大変です。入り口はカード式のシステムだと防犯にもつながると思います。
 - ・コロナ禍で難しい状況の中、色々な工夫をしていただき保育の場を提供して下さりありがとうございました。《他に同意見5件》
 - ・いつも子どもや保護者を温かく見守って下さりありがとうございます。
 - ・今年は特にコロナのこともあって先生方はとても忙しそうでした。園長先生もおっしゃられていましたが、先生を増やして欲しいです。また毎日ではなくとも男性の先生がいるとより身体を動かして遊んだりできそうなので良いと思います。
 - ・お友だちやお友だちのお母さんから“泣いていた”という話を聞くことができました。前後の流れもあるしお忙しいとは思いますが、できれば親に報告していただきたいです。
 - ・入り口の門の扉が開いている状態について防犯上心配になることが時々あります。朝、何度も開けるのは大変だしそれで開いているのだと思いますが、日中もなぜか開いたままの時があります。
 - ・園児が増えていますが、先生も増やしていただきたいと思います。定員をオーバーしてのお預かりは一人一人を見てくれる安心感がちょっと減ってしまいます。先生と園児のバランスは以前の方が手厚いように感じています。
 - ・参観ではなく保育参加してみたいです。普段の保育の中で子ども達と一緒に思い切り遊んでみたいです。
 - ・先生の大きな負担にならない範囲で連絡帳があったらとても良いと思います。特に今年度のような状況の中、子どもの様子を知ることができるので。
 - ・制限された一年でしたが、その中でも最大限に子ども達の為にたくさんできることをして下さりありがとうございました。
 - ・いつも長時間子どもを見て下さって、全てのスタッフ様に感謝しています。子どもも素直に育ってくれている様子で安心してお任せできています。
 - ・年少の頃は色々心配が多く余裕をもって子どもを見られないことも多々ありましたが、年中の一年間でとても成長を感

- じ、また親としても経験を積んで学ぶことの多い一年でした。
- ・行事や休園などコロナで大変な中、できるだけ通常の保育をしようと色々考えて下さった先生方、本当にありがとうございました。どうぞ来年度もよろしくお願ひします。
 - ・園児が増えてきているので、先生をもう少し増やしていただけたらと思います。
 - ・今年の様子から、例会は毎月でなくてもやっていけそうです。
 - ・危機管理に対する考えが低いのではないか。保護者例会でも全学年がそろそろと圧迫感がすごい。赤ちゃんなど小さい子どもに何かあったらどうするのだろう。真摯な配慮が必要だと思う。
 - ・先生方のおかげで楽しく幼稚園に通っています。ありがとうございます。
 - ・カリキュラムごとの保育活動の報告(クラス便り)が、年度後半に少なくなったようです。お忙しいとは思いますが、何かの形であるとうれしいです。特に今年はコロナのことで例会も少なかったのです。
 - ・子どもにとってすごく良い環境で、また園児たちの雰囲気も大好きです。

幼稚園から

コロナ禍の中にあつて、幼稚園も保護者の方々も手探りの1年間でしたが、年長組の子ども達をなんとか小学校へお送りすることができました。保護者の皆様にあつても休園があり、保育時間短縮ありと戸惑いの多い年度であつたと存じます。しかしそのような中にあつても、保護者の皆様が考える子どもにとってみどり幼稚園は何点か？という質問に7割以上の方が10点満点を下さいました。最低点数は8点でした。また同様に保護者にとっては？という問いに対しても平均点が9点に近い値となり、園としても感謝の気持ちでいっぱいです。また、幼稚園全体の印象としては、“温かい”、“個性尊重”、“楽しい”、“自由”、“面倒見が良い”を全体の半数以上の方が選択して下さいましたが、まさに保護者の皆様の幼稚園に対する評価と私たち園が目指すものが一致した結果だったのでないかと考えています。但し、その中に“手作りが多い”とか、“親の負担が大きい”というものも4分の1程度の方が選択されています。この点が子どもにとってと保護者にとっての点数の差になっているのではと思います。しかし、これらについても必ずしも否定的なご意見ばかりでなく、負担は大きかったが子どもが喜んでくれたのが嬉しかったとか、親も成長させられたなどの肯定的な感想もいただいています。

その他にも様々なご意見をいただいています。門の扉はインターホンを押していただくと事務室や職員室から解錠できるようになっていますが、昨年までは朝9時から9時半程度までは登園時間ということで園内にも多くの保護者があり、また出入りが大変とのご意見もあつたため、解放していました。但し、時々保育時間中も開いていることがありました。正門は子どもが開けてしまうことがあつたり、裏門では退出の際にきちんと閉められていなかったなどのことがあります。出入りの際施錠を確認していただくことや、事務所前の伸縮式扉などを含めお子さんには開け閉めを任せないなど、ご協力をお願いいたしたく存じます。子どもが“泣いた”ことについて報告して欲しいとの要望もありますが、幼稚園では程度の差はあるものの、子ども達が泣くことは日常茶飯事で起きていることです。この年代の幼児が泣くのは様々な理由があります。ケガとか身体のどこかが痛いというような場合は必ず保護者の方へ報告させていただいています。が、“思った通りにならない”、“上手にできない”、“自分を見て欲しい”などの自己主張や、時には泣き落としなどには先生方はあまり反応しません。それは泣けばなんとかかなると子どもが思ってしまうからです。泣いても無駄だということが理解できれば次第に泣かなくなります。これも成長の一段階と捉えていますので、保護者の方にその都度報告することはありません。但し、面談などで何があつてどのように解決されたか、などの報告を行う場合があります。またこの数年園児が増えているため教員の増員を望む声もいただいています。が、現在幼稚園教諭や保育士の確保の困難さはこの業界にとって深刻な問題となっています。現代は3K(きつい・汚い・危険)職業を避ける傾向にあることも一因です。幼稚園教諭はそれほどの覚悟と使命感が必要な職業だと言えるでしょう。みどり幼稚園においても、先生方の負担を軽減するためにも、現在は常に教員を募集している状態です。

近年は特に核家族化、共働き世帯の増加という問題があり、保護者の方から家庭での教育をどのようにすべきか、ということ質問されることも増えています。幼稚園としては第一には子どもにとって一番良いものをという精神を守って行きたいと考えていますが、幼稚園だけでもご家庭だけでも効果的な教育を行うのは難しい時代になっているのではないのでしょうか。